

夢しずく穂肥診断&ウンカ対策について

平成 30 年 7 月 30 日
佐城農業指導者連絡協議会

1. 夢しずく穂肥施用について

BB602 で約 6 kg/10a

- ・「夢しずく」では、ほぼ穂肥施用時期をむかえている。
- ・今年度は、多日照・高温で推移している。判断に迷う場合は、N1 kg/10a 施用すること。
- ・穂肥施用時（幼穂形成始期）は湛水し、その後の間断湛水では、地固めと根に空気を送るため落水期間を長めにとる。
- ・いもち病が発生している圃場への穂肥施用は、発生を助長するため施用を控える。

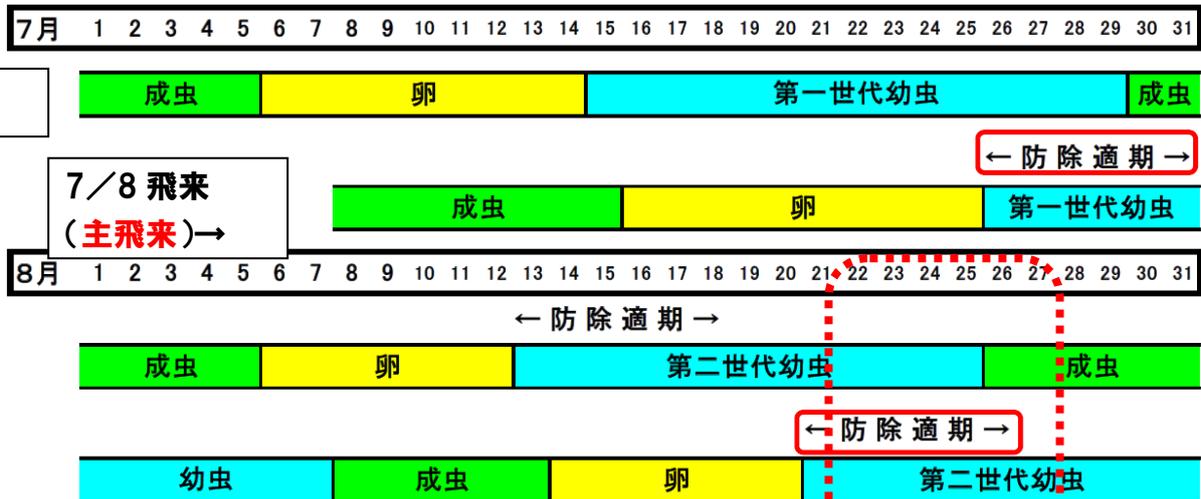
【平坦部での夢しずく穂肥診断基準】

幼穂形成始期の草丈	葉 色		施 用 時 期		穂肥施用量	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 kg/10a	BB602 kg/10a
73cm以下	3.0以下	34以下	20~22日	1mm	2.0	12.5
	3.0~3.5	34~38	18~20日	2mm	1.5	9.4
	3.6以上	39以上	施 用 し な い			
73~79cm	3.0~3.5	34~38	18~20日	2mm	1.0	6.3
	3.6以上	39以上	施 用 し な い			
80cm以上	施 用 し な い					

※草丈は、幼穂の伸長程度により幼穂形成期（1mm）を基点に、前後1日あたり1cm増減する。

※出穂前15日以降の穂肥は、玄米タンパク値を上昇させるので施用しない。

2. トビイロウンカ対策情報 第2報（7/27 現在）の発生予想パターン



- ・7月8日に主飛来と見られる飛来が認められたため、防除は7月8日の飛来波に重点を置く。
- ・梅雨明け以降、気温は平年より高く推移しているため、生育は遅延し、第二世代幼虫のふ化揃い期は、8/21~26日と予想される。（第1報 7/12 発表より3日遅い）

- ・必ず各地域及び圃場ごとの発生状況を確認する。（各地域及び圃場ごとに発生量が異なるため）
- ・防除の際は、湛水するとともに、株元まで薬剤が十分かかるよう、ていねいに散布する。

※最新の飛来状況については、農業技術防除センターのホームページから確認してください。

佐賀県庁 HP ホーム > 分類から探す > しごと・産業 > 農林水産業 > 営農支援情報・関連施設 >

病害虫データ>病害虫発生予察情報

<http://www.pref.saga.lg.jp/kiji00322110/index.html>